

受験番号

次世代学校教育創成  
サブプログラム

令和6年度  
筑波大学大学院 教育学学位プログラム 博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題（10月実施）

## 共通科目

(10:00～11:30)

### 解答要領

次の事項に注意して解答しなさい。

1. 「解答はじめ」の合図があるまでは解答を始めてはいけません。
2. 「解答やめ」の合図があれば直ちに筆記用具を置いてください。合図の後も筆記用具を持っている場合には不正行為と見なします。
3. 共通科目の問題には「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」があります。問題用紙の枚数は「教育原理に関する問題」が4枚、「教育心理に関する問題」が3枚です。
4. 「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」の答案用紙はそれぞれ1枚です。「教育原理に関する問題」と「教育心理に関する問題」はそれぞれ2問ずつありますので、すべて解答してください。
5. 答案用紙のホチキスは、外して解答してください。

【 令和6年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（ 「教育原理に関する問題」 ） 4枚のうち 1枚目

問題1 次の（ ）の中にあてはまる適切な用語を、次ページに示した選択肢の中から一つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

- (1) 19世紀、西欧諸国では社会の近代化とともに学校教育制度の整備が急務となった。ヘルバルトの教育学は、学校教育の内容と方法を初めて科学的に基礎づけたとされ、教育の目的を倫理学、方法を心理学に求めたものであった。その思想は著書（ ① ）や『教育の中心任務としての世界の美的表現』に著されている。特に有名なのが教授の形式段階論である。それは、（ ② ）・連合・（ ③ ）・方法の4つの心理的な理解のプロセスを構造化したものであった。
- (2) 明治期の日本の学校教育制度は、急速な近代化を遂げつつあった。1872年（明治5年）、明治政府は（ ④ ）を發布することで学校教育制度の基本的な内容を定めた。その後、初代文部大臣（ ⑤ ）は、種々の学校令を公布することで近代的な学校教育体系の整備を推し進めた。同時期に東京帝国大学では（ ⑥ ）がお雇い外国人教師として来日し、ヘルバルト学派の教育学を広めることに貢献した。
- (3) 1970年代以降、近代学校教育の限界が指摘されるようになり、これを乗り越える教育思想が希求されるようになった。イヴァン・イリイチの脱学校論は、学校的な価値観が社会に蔓延していることを（ ⑦ ）と呼んで批判し、自由な学習コミュニティとしての（ ⑧ ）を提唱する試みであった。また、いわゆるポストモダンの思想は、近代教育批判の理論的な拠り所として日本においても積極的に参照された。例えばミッシェル・フーコーの著書（ ⑨ ）は、学校、病院、刑務所といった諸システムに存在する規律と訓練による管理の権力を歴史社会的に暴き出した。
- (4) 学校教育で教え学ばれる事柄を定めた（ ⑩ ）は、文部科学省が告示した教育内容の基準であり、法的拘束力があるとされる。それは、1947年に発表された「試案」以降、子どもの日常生活や身近な問題解決を重視する（ ⑪ ）の立場と、科学的な知識の習得を意識した（ ⑫ ）の立場の両極を、「振り子」のように往来してきた。1970年代から始まり、2000年代初頭に本格実施されたいわゆる（ ⑬ ）は、学習内容と時間の削減、総合的な学習の時間の新設、学校週5日制の導入といった諸改革の総称であるが、その後まもなくして学力低下の原因であるとの批判を浴びるようになった。学力低下の根拠のひとつとして持ち出されたのが、OECD（経済協力開発機構）が実施する国際学力調査（ ⑭ ）である。それは参加国の15歳児を対象に、知識や技能を活用する力としての（ ⑮ ）を測定するものとなっている。

【 令和6年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

共通科目（ 「教育原理に関する問題」 ）

4枚のうち 2枚目

選択肢（使わない用語もある）

- |                             |                                   |                                 |
|-----------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|
| (ア) 小学校令                    | (イ) ペスタロッチ<br>(Pestalozzi, J. H.) | (ウ) 学校化                         |
| (エ) 保育所保育指針                 | (オ) フレイレ<br>(Freire, P.)          | (カ) 系統主義                        |
| (キ) 大正新教育                   | (ク) 系統                            | (ケ) 『被抑圧者の教育学』                  |
| (コ) アクティブ・ラーニング             | (サ) 経験主義                          | (シ) ハウスクネヒト<br>(Hausknecht, E.) |
| (ス) 提示                      | (セ) 学習指導要領                        | (ソ) TIMSS                       |
| (タ) 学制                      | (チ) 篠原助市                          | (ツ) リテラシー                       |
| (テ) 『監獄の誕生』                 | (ト) 直感                            | (ナ) ラーニング・ウェブ                   |
| (ニ) 大正自由教育                  | (ヌ) 社会システム理論                      | (ネ) 森有礼                         |
| (ノ) 応用                      | (ハ) 実証主義                          | (ヒ) ゆとり教育                       |
| (フ) PISA                    | (ヘ) 能力主義                          | (ホ) コンピテンシー                     |
| (マ) ブルデュー<br>(Bourdieu, P.) | (ミ) 『一般教育学』                       | (ム) 明瞭                          |

【 令和6年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

共通科目（ 「教育原理に関する問題」 ） 4枚のうち 3枚目

問題2 A群の説明にもっとも関係の深い用語を、次ページに示したB群の中から一つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A群】

- (1) 2023年6月に閣議決定された、第4期教育振興基本計画における中心的なコンセプトの一つであり、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じ、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものになることを表す概念。
- (2) 1954年に制定され、「教育公務員特例法の一部を改正する法律」とあわせて「教育二法」と呼ばれる。
- (3) カリキュラム (curriculum) を多層的に捉える概念整理において、学習者の側が実際に何を学んでいるのかに注目する概念。
- (4) 戦後新教育運動の中で、梅根悟などによって提唱された、子どもの生活経験を重視したカリキュラム編成のあり方。
- (5) 校長の推薦により学校設置者が委嘱し、校長の求めに応じて、学校運営に関して意見を述べることができる。
- (6) 大学の入学選考におけるマイノリティの特別枠の設置や優遇など、実質的な機会均等の実現を目的として、社会構造的に不利な立場に置かれてきた人々に対して講じる措置。
- (7) 2022年改訂版の生徒指導提要で示された、生徒指導の構造。
- (8) 義務教育段階の教職員の給与の3分の1を国が負担する制度。
- (9) 子どもの権利条約 (Convention on the Rights of the Child) において、差別の禁止、子どもの最善の利益、生命・生存・発達への権利と並んで、条約の基本的な原則とされている。
- (10) 科学的な理論や技術を実践に適用する、技術的合理性を基盤とする専門職像に対し、現実の状況と対話し、自身の行為を省察する中で実践を行う「省察的実践家 (reflective practitioner)」という新たな専門職像を提示した。

【 令和6年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

共通科目（ 「教育原理に関する問題」 ）

4枚のうち 4枚目

【B群】（使わない用語もある）

- (ア) アーティキュレーション (articulation)
- (イ) 経験されたカリキュラム
- (ウ) アーレント (Arendt, H.)
- (エ) 県費負担教職員制度
- (オ) ウェルビーイング (well-being)
- (カ) 学校教育法
- (キ) 義務教育費国庫負担金制度
- (ク) 子どもの保護
- (ケ) 義務教育諸学校における教育の政治的中立の確保に関する臨時措置法
- (コ) 社会に開かれた教育課程
- (サ) コア・カリキュラム
- (シ) 2軸3類4層構造
- (ス) 地域学校協働本部
- (セ) アファーマティブ・アクション (affirmative action)
- (ソ) ショーン (Schön, D. A.)
- (タ) 学校評議員
- (チ) 子どもの意見の尊重
- (ツ) 単層構造
- (テ) 内外事項区分論
- (ト) 実践されたカリキュラム

【 令和6年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

受験番号	領域名
------	-----

共通科目（ 「教育心理に関する問題」 ） 3枚のうち 1枚目

問題1 A群の説明にもっとも関係の深い用語を、次ページに示したB群の中から一つ  
選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A群】

- (1) 記銘直後よりも、記銘から一定時間が経過した方が、記憶が想起しやすいという現象である。
- (2) 記憶の負荷を軽くするために行われる情報処理である。
- (3) 心理的な傷つきや落ち込みから立ち直る力や性質のことである。
- (4) エスノセントリズムは民族間の、ナショナリズムは国家間での表れと言える。
- (5) 交流分析理論に基づいている。
- (6) 知的な発達最初の段階である。
- (7) 乳児が機嫌のよいときに自発的に発することが多い。
- (8) 自己、他者、対象からなる三項関係コミュニケーションの一連の諸現象の総称である。
- (9) オペラント条件づけにおける重要な概念である。
- (10) 精神分析学の概念である。

【 令和6年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

共通科目（ 「教育心理に関する問題」 ） 3枚のうち 2枚目

【B群】（使わない用語もある）

- (ア) 内集団びいき (in-group favoritism)
- (イ) ホーソン効果 (Hawthorne effect)
- (ウ) 共同注意 (joint attention)
- (エ) 肛門期 (anal phase)
- (オ) 感覚運動期 (sensorimotor period)
- (カ) サイン・ゲシュタルト (sign-gestalt)
- (キ) アチーブメントテスト (achievement test)
- (ク) エゴグラム (egogram)
- (ケ) レミニセンスバンプ (reminiscence bump)
- (コ) レジリエンス (resilience)
- (サ) レミニセンス (reminiscence)
- (シ) クーイング (cooing)
- (ス) サイコドラマ (psychodrama)
- (セ) 強化 (reinforcement)
- (ソ) チャンキング (chunking)
- (タ) アンドロジニー (androgyny)

【 令和6年度筑波大学大学院教育学学位プログラム博士前期課程  
次世代学校教育創成サブプログラム入学試験問題 】

共通科目（ 「教育心理に関する問題」 ） 3枚のうち 3枚目

問題2 A群の人名にもっとも関係の深い用語をB群の中から一つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

【A群】

- |                                |                             |
|--------------------------------|-----------------------------|
| (1) 三隅二不二                      | (2) アクスライン (Axline, V. M.)  |
| (3) セリグマン (Seligman, M. E. P.) | (4) ポルトマン (Portmann, A.)    |
| (5) オースベル (Ausubel, D. P.)     | (6) クレッチマー (Kretschmer, E.) |
| (7) ブルーナー (Bruner, J. S.)      | (8) マレー (Murray, H. A.)     |
| (9) スタンバーグ (Sternberg, R. J.)  | (10) シュブランガー (Spranger, E.) |

【B群】（使わない用語もある）

- |   |   |
|---|---|
| (ア) 遊戯療法<br>(play therapy)                        | (イ) 青年期<br>(adolescence)                        |
| (ウ) 成人形成期<br>(emerging adulthood)                 | (エ) 生理的早産<br>(physiological premature delivery) |
| (オ) 有意味受容学習<br>(meaningful reception learning)    | (カ) 新行動主義<br>(neobehaviorism)                   |
| (キ) 知能の鼎立理論<br>(triarchic theory of intelligence) | (ク) 集団維持機能<br>(maintenance function)            |
| (ケ) 主題統覚検査<br>(Thematic Apperception Test)        | (コ) 箱庭療法<br>(sandplay therapy)                  |
| (サ) ポジティブ心理学<br>(positive psychology)             | (シ) 社会的アイデンティティ理論<br>(social identity theory)   |
| (ス) 発見学習<br>(discovery learning)                  | (セ) 神経症傾向<br>(neuroticism)                      |
| (ソ) 循環気質<br>(cyclothymia)                         |   |